

第1回検討委員会 開催

■日時 平成25年4月24日（水）18時30分から

■場所 上郷地区センター

「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策 検討委員会ニュース 第1号



現在、上郷中学校は準小規模校（一般学級数が9～11学級）、庄戸中学校は小規模校（一般学級数が8学級以下）となっており、今後もこの傾向は続くと思われています。そこで、「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会を立ち上げ、子どもたちの教育環境向上について議論していきます。

決定事項等

- 委員長、副委員長の選出を行い、検討委員会の運営方法について決定しました。
- 上郷中学校・庄戸中学校の現状と課題の説明の後、教育委員会より、両校の学校統合が望ましいとの提案がありました。この提案について、多くの賛成意見が出ました。
- 本日の説明、議論を含め、各所属団体に持ち帰り、次回の検討委員会で意見を報告してもらうことになりました。
- 次回の検討委員会では学校統合をした場合の資料（統合時期、使用校舎、学校名等）を基に話し合いを進めることになりました。

当日の様子



1 検討委員会立ち上げ趣旨

「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会運営要綱に基づき、検討委員会を立ち上げました。

「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会運営要綱（抜粋）

（運営・検討事項）

第1条 横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針（※）に基づき、上郷中学校・庄戸中学校の学校規模に起因する諸課題に関し、その解消及び生徒の教育環境の向上について検討するため、「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会（以下「委員会」という。）を運営する。

（委員）

第2条 委員会の委員は、次の各号に掲げる者に就任を依頼する。

- (1) 連合町内会長
- (2) 自治会町内会長又は自治会町内会が決定した者
- (3) 保護者（PTA）代表
- (4) 市立中学校長
- (5) 市立小学校長
- (6) 前各号に掲げる者のほか委員会が必要と認める者

（以下省略）



2 小規模校の特徴

（事務局より説明）

「小規模校」（一般学級数で小学校は11学級以下、中学校は8学級以下）は、地域と連携を図りながら、学校の実情に合った教育活動に取り組んできました。しかし、学校や地域の努力だけでは解決できない課題が生じていることから、小規模状態の解消に向けた取り組みが必要です。基本方針（※）では、適正な学校規模を、12～24学級（小学校は各学年2～4学級、中学校は各学年4～8学級）と定めています。

長所	短所
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども同士よく知りあうことができ、<u>人間関係を密にすることができる。</u> ・ 縦割りの学習などを通して、<u>異学年と関わる機会が増える。</u> ・ 様々な学習活動の場で、一人ひとりの良さを生かして、それぞれが<u>活躍する機会を持つ</u>ことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの数が少ない分、切磋琢磨する機会も少ないため、<u>人間関係を修復する力や社会性が育ちにくい。</u> ・ 運動会や音楽会など、<u>大勢で力をあわせ喜びが得られる行事等が行いにくく、</u>活気も乏しくなる。また、総合的な学習等における<u>課題別学習、部活動の選択幅が限られる。</u> ・ 中学校は効果的なクラス替えができる各学年3学級以上を確保できない。

3 両校の概要

(事務局より説明)

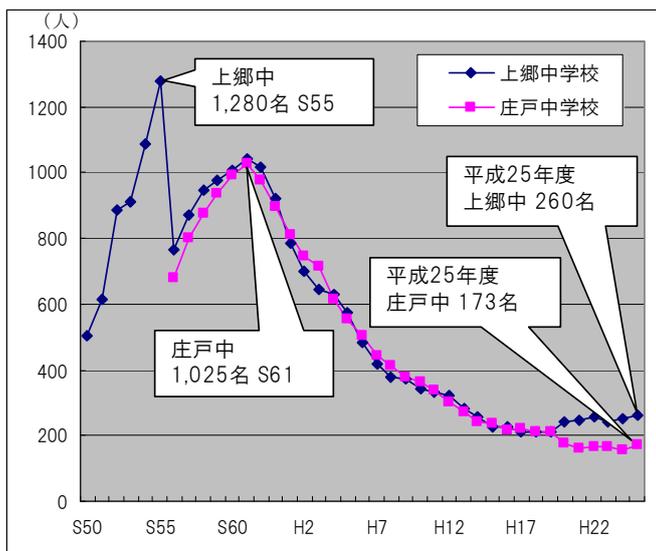
●基礎情報

(各数値は平成25年4月24日現在)

	上郷中学校	庄戸中学校
開校年度	昭和50年(39年目)	昭和56年(33年目)
親校	本郷中学校	上郷中学校
建築基準年	昭和50年(39年目)	昭和56年(33年目)
小中一貫教育	上郷小、桜井小	庄戸小
その他	地域医療救護拠点	地域防災拠点、地域医療救護拠点

●生徒数の推移

●今後の両校の生徒数・学級数の推計



平成24年度義務教育人口推計より(個別支援学級を除く)

上郷中学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
生徒数	252	260	271	271	287	285	277	14
学級数	9	9	9	9	9	9	9	
庄戸中学校	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	普通教室数
生徒数	157	173	176	186	164	161	146	14
学級数	6	7	6	6	6	6	6	

※H24は5月1日現在、H25は4月5日現在の実数値。

H26以降は推計値。

※中学校の生徒数、学級数の横浜市平均(H24年5月1日現在)は、537人、15学級。

4 通学区域の調整による小規模校の解消について

(事務局より説明、提案)

～横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針(抜粋)～

小規模校の問題を解消し、教育環境を改善するとともに、効果的・効率的な学校経営を行うために、地域と十分に調整を図り、保護者・地域住民の理解と協力を得ながら、通学区域の変更等を行い学校規模の適正化を推進する。

また、通学区域の変更・弾力化等が実施できない場合や実施によっても小規模校が解消しない場合については、学校の統合について検討を進めることとする。



通学区域の調整について検討

通学区域の調整による小規模校対策について(庄戸中)

周辺校との通学区域調整については

- ・上郷中は9学級の準小規模校のため、通学区域調整での適正規模化はできません。
- ・金沢区西金沢中は6学級の小規模校であること及び通学するには地形上の課題があるため、通学区域調整での適正規模化はできません。

以上の理由により、庄戸中について、通学区域調整による小規模校対策は困難だと考えます。



教育委員会からの提案

小規模状態を解消するためには、隣接している上郷中と庄戸中を学校統合することが望ましいと考えます。

- ☆ 検討委員会はどのくらいの期間検討するのでしょうか。
→ 今までの例ですと、検討に概ね1年という形が一般的となっています。検討委員会の開催頻度は概ね1か月から2か月に1回ぐらいで開催したいと考えています。
- ☆ 今後の両校の生徒数・学級数の推計値はどのように算出しているのですか。
→ 中学校の推計値については、関係小学校の子どもの数を基に中学校に入学する割合を掛けて算出しています。それに私学進学率や転出入、マンション等の開発状況を加味して作成しています。
- ☆ 小規模校の特徴としては良い時はすごく良い学校運営ができますが、例えば小学校で子ども同士の序列ができてしまっている場合、その関係のまま中学校に上がって行くこととなります。複数の小学校から子どもが集まる学校であれば子ども同士の関係にも変化が生まれ、社会性が構築されていくことになると思いますが、現状のままではそれも難しいです。また、子どもたちのことを考えると部活は重要です。特に団体競技の部活の中には試合をするのも困難なほど人数の少ない部活もあります。いろいろな考えがあると思いますが、子どもたちのことを考えると学校統合が良いことではないかと思います。
- ☆ やはり部活と行事は重要だと思います。部活については、学校規模が小さいと部活の数も顧問の数も限られてしまい、子どもたちの選択の幅がかなり狭くなってしまっているのが現状です。行事については、現在も子どもたちは本当に一生懸命行事に取り組んでいますが、学校統合して適正規模になればもっと活気溢れる、盛り上がる行事になると思います。
- ☆ 確かに庄戸中は子どもの数がすごく少なくて、体育祭の時に生徒のほとんどが運動場に出てしまって応援する生徒がほとんどいないというような感じで寂しくなっているのが、学校統合には賛成ですが、桂台中も含めて3校を2校にする統合はできないのですか？
→ 桂台中も含めて検討しますと議論が複雑になってしまい、検討期間が1年以上になる可能性もあります。そうすると庄戸中の教育環境が改善される時期が遅れてしまいます。子どもは少しでも早期に改善する必要があると考えておりますので、今回は上郷中、庄戸中の2校についてご議論いただければと思います。
- ☆ 先程、桂台中も含めて検討をとの意見がありましたが、桂台中を含めての検討となると本郷中も視野に入れる栄区全体の問題となり、私たちだけの協議検討とはなりません。となりますと、小学校の学校統合の経験から、結論を得るまでに相当長期の検討時間が必要となります。今回私たちが集まっているのは、庄戸中の小規模状態を何とかしなければいけないという喫緊の課題解決にあるので、上郷中、庄戸中の学校統合に絞って話し合うのが得策だと思います。
- ☆ この地区の小学校の学校統合を経験し、とても大変な思いをしましたが、結果として学校統合して本当によかったと思っています。その時から、なぜ中学校を先に学校統合してくれないのかと思っていました。やはり、学校統合して、子どもたちが部活だけでなく、いろんなことができる人数になってくれることを心から願っています。
- ☆ 教育委員会からの説明で、通学区域の調整だけでは小規模校対策は困難ということが示され、各委員からも部活等の関係で学校統合はやむを得ないというお話もありましたので、学校統合はやむを得ないという気持ちになってきています。
- ☆ 現状の生徒数では部活が寂しいと思っています。また、生徒数が多いと切磋琢磨できると思いますし、効果的なクラス替えができるくらいの学級数があると良いと思います。
- ☆ まだ決まってないですが、もし学校統合することが決まって仮に上郷中を使用するということになるのと、庄戸地区に引っ越してくる方がさらに少なくなって、どんどん寂しい街になっていくのが心配です。ただ、今日皆さんのお話を聞いた限りでは学校統合したほうが良いと思いました。
- ☆ 部活を学校統合の理由として挙げている方が多いですが、学校統合をすることで学力向上等でもメリットがあるか考えなくてはいけないと思います。
- ☆ 学校統合には賛成ですが、使用する校舎が上郷中になりそうな印象を受けました。
- ☆ どちらの学校を使うかはまだ白紙の状態だと思っています。「上郷中への学校統合」ではなく、「上郷中との学校統合」ということだと思います。
→ もし学校統合を前提に検討を進めていくことになった場合、統合時期、使用校舎等については次回以降の検討委員会で話し合ってくださいということになります。

6 検討委員会の運営方法

検討委員会の開催にあたり、「代理出席」「傍聴」「情報提供」について話し合いを行い、次のとおり決定しました。

「代理出席」

過去の検討委員会に出席していない方が代理出席した場合、委員会の検討内容や決定事項などについて、正確な情報や検討経緯などが不正確に伝わる恐れがあり、円滑な委員会の運営に支障が生じる可能性があることから、**代理出席は認めないこととする。**

「傍聴」

傍聴を認めることで、開かれた検討委員会の運営というメリットがある反面、各委員が傍聴者を意識して、主体的な意見が述べにくくなる、あるいは検討委員会の運営内容などが傍聴者から不正確に外部に伝わるおそれがあるなどの点から、**傍聴は認めないこととする。**ただし、報道機関等から傍聴の申し出があった場合は委員長に判断を委ねることとする。

「情報提供」

検討委員会の検討内容を掲載したニュースを作成し、

- ①両中学校区内への全戸配布
- ②関係小学校の児童を通じて保護者に配付
- ③教育委員会事務局のホームページへの掲載等

により周知を図っていきます。

7 検討委員会の構成

検討委員会の委員及び委員長・副委員長については、「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会運営要綱に基づき、次のとおりとなりました。

「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会 委員
(平成25年4月24日現在、敬称略)

(委員長)	吉田 敏生	上郷東連合町会 会長			
(副委員長)	本多 淳一	上郷西連合町会 会長			
	北條 祐英	上郷中学校 PTA会長			
	秋山 典文	庄戸中学校 PTA会長			
(委員)	土田 稔	尾月自治会 会長	川幡 洋子	上郷中学校	前PTA会長
	新保 孝雄	上之町内会 会長	森 誠司	庄戸中学校	前PTA会長
	深草 伸一	上郷西ヶ谷団地自治会 会長	宮内 仁志	上郷小学校	PTA会長
	萩原 尚	港南台コートハウス自治会 会長	田村 千尋	庄戸小学校	PTA会長
	内田 正純	上郷町内会 事務局長	吉田 直史	上郷中学校	校長
	平口 春子	庄戸四丁目町会 会長	松本 勉	庄戸中学校	校長
	鎌田 淳	長倉町自治会 会長	大谷 珠美	上郷小学校	校長
	篠田 佳典	上郷ネオポリス自治会 会長	三瓶 徹	庄戸小学校	校長
	工藤 博子	みどりが丘自治会 会長			

【第2回検討委員会の日程】

★平成25年6月18日(火) 18時30分から 上郷地区センターにて

(検討予定内容)

1. 各所属団体からの意見報告について
2. 学校統合(統合時期、使用校舎、学校名)について
3. その他



(※)「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会の経過、横浜市の基本方針等はホームページでもご覧になれます。

- ・基本方針など <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoiku-info/gakku-houshin.html>
- ・「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/shoukibo/sakae.html>



「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会では、皆さまからのご意見を受け付けております。FAXかEメールにて、事務局(学校計画課)までご連絡ください。

*「上郷中学校・庄戸中学校」小規模校対策検討委員会
事務局(学校計画課)

TEL:045-671-3253 FAX:045-651-1417
Eメール:ky-sakae@city.yokohama.jp

